

## 例 言

1. 本書は執筆者達の自己負担により調査研究され、出版する報告・研究書であり先島文化研究所（沖縄県石垣市字新川41 大瀨永亘主宰）を発行元とする。
2. 調査対象とした陶磁器は大瀨永亘氏が1960年6月以来収集し、2008年10月現在すべて先島文化研究所所蔵となっており、保管管理されている。
3. これらの名蔵シタダル海底遺跡の先島文化研究所所蔵資料は、共同研究報告書発刊の際、石垣市に寄贈したい。この機会に名蔵シタダル海底遺跡を石垣市の指定史跡として欲しい。また遺物の市指定を行って頂き、末永く活用されることを願う。
4. 本書の執筆・写真・図・表・挿図等は次の分担で行い、総編集は関口が行い、総括に替えての玉稿を谷川章雄氏（早稲田大学人間科学学術院教授）より頂戴した。
  - 大瀨永亘 第1章
  - 関口広次 第2章、第4章、第6章
  - 大瀨永寛 第3章
  - パリノ・サーヴェイ(株) 管理者植木真吾・担当者矢作健二・分析者斎藤紀行 第5章
  - 谷川章雄 第7章
5. 本研究報告書の作成にあたっては、次の諸氏・諸機関よりご教示・ご協力を賜った。銘記して感謝する。
  - 長谷部楽爾（石洞美術館館長）・長谷川祥子（静嘉堂文庫美術館）・吉良文男・下地傑（石垣市立八重山博物館）・岩橋陽一（東京都埋蔵文化財センター）・池田悦夫（文京区教育委員会囑託）・石垣市立八重山博物館（敬称略）
6. 第10・11・12表の類似品出土一覧表作成の文献検索に当たっては、基本的な文献として国立歴史民俗博物館資料調査報告書4『日本出土の貿易陶磁』西日本編1～3 1993 国立歴史民俗博物館及び国立歴史民俗博物館資料調査報告書5『日本出土の貿易陶磁』東日本編1～2 1994 国立歴史民俗博物館の計5冊をまず使用した。そのうち大阪（記入者森村健一）・鳥取県（記入者久保穰二郎）・東京（記入者鈴木裕子）・福井県（記入者南洋一郎）では主要貿易陶磁の項目に割高台（抉り高台）の記載そのものがなされており、そこからとりあえず引用させていただいた。銘記して感謝申し上げる次第である。当然原典を探索したが、一部原典に当たっていない報告書もあり、それらについては宿題として残した。ご寛恕願いたい。
7. 実際の報告書に当たる作業は国立国会図書館の蔵書を中心に行い、沖縄県では県立埋蔵文化財センター図書室蔵本、鹿児島県では鹿児島県立埋蔵文化財センター図書室蔵本の閲覧を中心に行った。そのほか沖縄県立図書館八重山分館・石垣市立図書館・沖縄県立図書館・那覇市図書館・沖縄県立公文書館・鹿

兄島県立図書館・鹿児島市立図書館・鹿児島市立ふるさと考古歴史館図書室・福岡県太宰府市民図書館・千葉県立図書館・船橋市図書館・都立中央図書館・神奈川大学図書館平塚図書室・青山学院大学図書館などでも文献検索を行ったことを銘記する。

8. 『龍泉縣志』の検索・実見は国立国会図書館・埼玉県文教大学越谷図書館の蔵書を中心に行い、中国では上海市上海図書館の貴重な蔵書より引用したことを銘記する。
9. 巻頭カラー 11A, B 静嘉堂文庫美術館所蔵「顧氏」銘青磁盤の掲載に当たっては静嘉堂文庫美術館のお許しと貴重な写真の提供を受けた。その際長谷川祥子学芸員にご尽力頂いた。併せて銘記し、感謝申し上げる次第である。
10. 陶磁器の写真撮影、実測図、トレースはすべて関口広次が行った。
11. 第2章の中文要旨は関口と姪である賈佳とで行い、英文要旨は関口の妹の関口智子が行った。